

第12回 雄物川水系河川整備学識者懇談会

議事概要

(事務局説明を除く、質疑応答について記載)

(○：委員、●：事務局)

(1) 河川事業 事業評価

①雄物川総合水系環境整備事業 再評価について

- 資料の9頁目の費用便益算定のところで、今回CVMをやられて、平成26年度のもの比べて支払意思額の方が402円ということで、約2.4倍ぐらい上がっていますが、この理由について、何か分析をされておりましたら教えていただければと思います。
- 前回の評価の支払意思額、平均値で165円、1世帯あたり。これが今回402円ということで、2倍から3倍近く上がっているんですけども、これにつきましては今回プレ調査と言いますか、事前調査でウェブアンケートをやりまして、それは50kmの範囲でやったんですけども、それでこの事業への関心度とか、雄物川に対する理解度が大体20km圏内を境に落ちてくるものですから、今回その20km圏内で設定しまして、あと金額も事前調査のアンケートをもとに金額を設定してございます。最大で4,000円という数値が出ておりますが、その関係で高めに払ってもいいよという人が何人かいましたので、その関係でちょっと高めになったのではないかと。ただ、他河川に比べてもそんなに飛び抜けて大きい数値でもなかったもので、この数値で設定してございます。
- 同じくこのCVMですが、今の9頁目のお話で教えていただきたいんですけども、まず一つはアンケートの大事なところなんですけれども、回答者の性別や年齢構成に、今回のこの数値がどのように影響したかという点を一つ教えていただきたいと思います。それからもう一つですけれども支払意思額の中に、私ちょっと意味が分からないんですけど、抵抗回答等を排除したというのは、これはどういうことなのでしょう。教えていただければと思います。
- 抵抗回答というのは、例えば同じゼロ円、払いたくないという意味があったとしても、全くその事業を理解せずに払わないというものを抵抗回答としまして排除しました。ただ、事業を理解した上でやっぱり払いたくないなという回答をした人はゼロ円で集計にカウントしてございます。
- あと年齢、性別は分かるんですが、基本的に男性だから、女性だからということで、何かこれに反映したということはしてございません。

○13頁目の、直近の11月28日付で知事からの回答が来ているんですけども、この中で河川環境が永続的に保全されるように努めるとともに、という言葉があります。下から3行目。我々の意見として、河川環境が永続的に保全されるように努めるということに対して、やはり若干の奇異な感じがいたします。具体的に言いますと、永続的というよりは、むしろ今の流れとしては言葉で表せば、サステイナブル、持続的にやるためにはどうすればいいのかということで、例えばモニタリングは必須だと思います。同時に今の言い方をすれば、いわゆる適応的にアダプティブにその場その場でどんどん変えて行くことがむしろアダプティブマネジメント、適応的管理が今の流れとしては来ているわけなんですけれども、そういった全体の流れの中で、知事の回答は、これはこれで意見を言ってもしょうがないわけなんですけれども、河川環境が永続的に保全するという意味が、やはりちょっと分かりづらいということで、我々の方としてはもし可能であれば、なんらかの、若干のことをやっておかないと、あるいはその意味をもうちょっと聞いてからやった方がいいのかというふうに、奇異な感じがいたしました。以上です。

○資料の2頁目、そして2頁目下方に各地区の整備内容と工程ということで、この事業で7つの分化された整備があるということで、そのうちの6つを終わらせて、いま7つ目を行っているのが示されています。今回のこの会議での目的と言いますか、承認事項は7番について平成30年で終了というのではなく、平成32年までに整備をしたいということ。また①から⑥までの事業についてはフォローアップするというのが大きな目的ではないかと思えます。

それですでにフォローアップの方ですけど、3頁目、4頁目でご説明されているんですが、整備しました、うまく使われていますというのは少し分かるんですけど、フォローして行く中で時間が経つと、例えば少し劣化して行くとか、一度整備したらそのままずっと使われ続けられるんだらうと思っていたものが、実際そうではなかった場合もあるのかも知れないなと思ったんですね。その場合、どういうものについてはこういう補修と言いますか、追加的な整備が必要なのか。もしあればそれはしっかりご説明いただいて、今年度以降も少しずつメンテナンスして行くというのも必要ではないかと思いました。それがしっかり分かると、他の事業に関しても、例えば河川公園の整備であると、整備した後にまた何年か後にフォローが必要だということで、知識としてまとめることができるのではないかと思いますので、もし何かあれば、なければないで問題ないですけど、そのあたりを説明してほしいということです。

もう一つが今行っている事業を2年間延長ということですが、それは6頁に書かれています、事業の内容ということで上から1、2、3と点があって、その3つ目で2年延伸するという事なんですけれども、これはあっさりしているかなという気もしましたので、

もう少し、どうして2年なのか、3年じゃなくて、もしくは1年でなくて2年なのかとか、そのあたりをもう少し説明をいただきたいなということでもありますので、よろしくお願いします。

- まず一つ目の整備済みの箇所でございますが、基本的には環境整備事業の中で補修という項目はございません。ただ、通常の河川維持費と言いますか、そちらの中で占用とかで大体自治体の占用が多いんですけれども、そこの話し合いの中で、例えば河岸に面している所の石張りとか、自然風に造った所が壊れたので、そちらは国でなんとかとか、あと上物で遊具とかもありますけれども、それは確実に自治体の方で補修をお願いしますといったような流れで行ってございます。

あと2点目の6頁目の整備期間の延伸とか、事業費の増額の方ですけれども、いまやっている例でご説明しますと、例えば6頁目のたまりの対策ですね。この対策の整備期間は1年間を当初の目安として思っておりました。今年だけで一気に川につなぐことも考えておりました。ただ、やはり自然環境というのは一気にやってしまうと、あとからこうじゃない方がよかったねとか、そういうのもあるよと。慎重にやるべきだろうということで、今年に限ってはたまりがちゃんと形成されるか、湧水がうまく溜まるかというところまでにしまして、来年たまった水の状況とかを見て、それで既存のたまりにつなぐ作業は来年にしましょうとか、あともう一つはワンドの対策も同じように、ワンドというのは川につながって初めてワンドになるんですけれども、いきなりつないでしまうと本当に出来たそのものを、いきなり川につないでいいのかと。ワンドの形成具合を見てから、そんなに焦らなくてもいいんじゃないかと。これも2年ぐらい掛けてうまく溜まっているようであれば川につなぐ作業を次の年にやりましょうかという意見が検討会の中でいろいろ出ましたので、もう少し慎重にやった方がいいんじゃないかということで2カ年延長してございます。

- はい、ありがとうございます。今の説明いただいた2件目につきましては、整備する際には1年でいいと思っていたわけですね。検討会の中でそれがあまりよくないよということであったと思うんです。そのあたりは今後の整備に関してしっかりと1年という性急に行うのではなくて、しっかり状況を見るというふうに計画段階から変えられるようにお願いしたいと思います。どうもありがとうございます。

- 分かりました。

- ただですね、今日の最初の段階でそういう説明等があれば、皆さん、すんなりなさったんじゃないかという風に思っております。それと先ほどのある河岸整備が必要でないかということですが、今までのこの事業評価等において、今までの経験を踏まえて、今後の同じような事業に対して意見するような機会というのがありましたよね。多分、今まで出てなかったと思うんですね。そして多分0.5%の維持費内で今まで収まっていると、そ

ういう理解でよろしいわけですね。

- この0.5%はあくまでも環境整備の工事費の0.5%です。堤防の除草とか、護岸が壊れた場合の補修とかというのは、河川の維持費というのがありまして、それでやっているものですから、今まで整備済みのところは補修とかが必要であれば、その中で行うということでございます。
- この事業に関しては継続妥当というふうに思っておりますけれども、参考までにこうした樹林化、それから土砂の堆積というのは雄物川水系のあちこちで、いろいろな所で起きているわけでありまして、そうした河川本来の機能を取り戻す、維持するための浚渫とか、そうした事業というのは、どれくらいの予算で年間行っているものか、参考までに教えていただければというふうに思います。
- ちなみに雄物川上流、湯沢分ですと約7億ぐらいで、これは先ほど言ったように除草とか、その処分とか、いろいろ含まれてございます。

○そうしますと14頁目に戻っていただけますでしょうか。決めなければいけないことがございまして、先ほどの〇〇委員の意見を考えますと、一番下の赤い括弧の中の下から2行目ですかね。河川環境整備と保全を推進し、という所でちょっと何か文言を加えるかということになるのではないかと思いますけれど、そのあたりを必要か必要でないか、〇〇委員の言われたようなことを満足しているというふうにご判断するかどうかですね。そして最終的には事務局案の事業継続、これに異議があるかないかということ、この2点をちょっと議論したいと思っておりますけど、〇〇委員いかがですか。

○要するに、皆さん話しているように、一度決めたらコンクリートにもするなよと、どんどんやっている最中に延伸したり、そういうこともあるし、それがむしろいいことなんだというのが僕たちの考えなわけです。それはモニタリングというバックグラウンドがあり、そういうふうなことをやって、適応的に状況に応じてどんどん変えていって、むしろいいんじゃないのかというのが読めればですね。14頁目の河川環境整備と保全を推進しという中であれば、その中にはそれが入りますよという意味であれば無論いいんですけども、直近の知事の28日ですか、見るとなんかすごい、永久のという言葉がちょっと引っ掛かったなということで、その言葉をむしろこの中には入れるわけではないわけなんで、知事は知事の考え、我々は我々の考えであれば、今後とも持続的に河川の環境整備を、というような所がちょっとあればいいのかなと思います。以上です。

○そうしますと、一つ目に関しましては、今日のこの後に最終的な案を示す形になっておりますので、事務局の方にここを、下から2行目を変えるかどうか。それとも保全という中にいま〇〇委員が言われたようなことをすべて含めているんだと、そういうご説明でも結

構かと思えますけれども、最後に案を示していただくということで、最初の議論、よろしいでしょうか。

○さっき〇〇委員が最初のところで環境保全はおかしいと言ったんだけど、今で行けばこの文言は、私は環境保全、これは大事なことだと思います。

○そうしますと河川環境整備と環境保全と、環境を付けるというのがいま出ましたので、事務局、ちょっと押えておいてください。これでよろしいですか。

●先生のご趣旨は、今の川の状況を見ながらどうやって行くかということだということと、将来の状況もちゃんと見ながら、その都度持続的にやって行くということなのかなと思います。河川管理者としては当然、今後ともしっかりやって行かなければいけないと思ってございます。ただ、ここでの記述対象は本事業を平成32年までやって、その5年後フォローアップするという部分についての評価というところでございますので、その保全のところに河川環境の保全と、例えばそういった文言については妥当かなと思うんですけども、永続的にというのは、この事業の評価としてはちょっと書きにくいかなと思いますので、そのあたりをご理解いただければと思います。

○分かりました。そうしますと、皆さんのご意見を踏まえまして、下から2行目のところに環境保全というふうな方向で、最後に事務局に案を提案していただければと思います。それで結局、事業継続にするかどうかということですけども、この委員会としては了承するというところでよろしいでしょうか。

はい、それではこの委員会では事業継続ということで締めさせていただきます。どうもありがとうございました。

②雄物川上流消流雪用水導入事業（湯沢地区）事後評価について

○費用対効果の話のところ、お聞きしたいなと思ったんですけども。前回評価から総便益が非常に大きくなってございますけれども、この要因を、教えていただければなと思います。総額は載っているんですけども、内訳みたいなものが参考資料を見ましても、資料-4を見ましても載っていないので、何がどのように動いて、このような結果になったのかなと分かりにくいところがありますので。特に、便益について、前回から何が大きく動いたのか教えていただければなと思います。

●要因的には、やはり雪の量でございます。秋田観測所を前回使っているんですけども、実際、秋田市と湯沢を比べれば、本当倍以上ぐらい降っている関係がございまして、要するに、その雪の量を出しまして、それを片づけるのにどのくらい掛かるかといった労力を算定してございますので、秋田観測所を、今回は事業箇所に見合った湯沢観測所に変えた

ことが一番便益の大きく違ったものでございます。

○はい、ありがとうございます。そうすると、費用の方は、6億円ちょっとの増加なんですけれども、この場合の費用の増加は何によるものなのでしょうか。

●それは現在価値化で集計したものでございまして、コストにつきましてはこの20億1千万円を残存価値とかで計算しているんですけれども、参考資料にはちょっとそこまで。

○6頁目を見ますと、事業効果の発現状況ということで、整備前と整備後を比べると、環境が良くなったというのが目で見て分かるという、本当に良い事業だなと思えました。それで質問は、どれぐらいの雪が降っても、これが機能できるかというのを、もし数値でお持ちでしたら教えて下さい。どれぐらい雪が降っても大丈夫か。もちろん限界はあると思えますので、限界ってどれぐらいなんだろうというのを、ちょっと知ってみたいかということなんです。

もう一つは、今のB/Cの話も少し関係するかもしれないですが、3頁の事業の概要というところで、全体事業費25億円だったところ、当初予算が25億円だったところ、実際には20億円で整備できた。これまた非常に素晴らしいことだなと思うんですが、これどういう苦労をされて、どういうことで、ここまで上手く少ない金額で良い事業できたかというところを教えていただきたいんですけれども。

●最初の、どのぐらいの雪で効果がということなんですけれども、直接数字的には、ちょっと分かりません。ただ、いま現在、例えば5頁目の緑で示しました流雪溝、一斉に住民が投雪すると、これアウトでございます。それで、その管理運営につきましては、地域で総合的なものを作って、時間のルールとか、この地区は何時から何時、こっちは何時から何時とやっていますので、その辺、量的なものというよりも、そういう管理運営、これ地元でしっかりすることによって、大雪でも何でも基本的には大丈夫かなと。

○でも、最終的に流雪溝に流すという時に、一斉に流すと駄目だということですから、やはり限界があると。

●そうですね。

○そのあたりが少し分かって、それを住民の方にも上手く伝わっていて、この雪だったら少しは我慢してみるとか、そういうふうなコミュニケーションまで行けると良いかなと思えましたので。計算難しいかもしれないですけど。できるのであれば、これぐらいの原因と言うか、一杯一杯なので、少しここは時間つぶして下さいとか、ここだったら全然関係なく出しても大丈夫ですよとか、そこら辺の話もできると良いかなと思えました。

それで、資料-4を見ますと、7頁目で、一応は50年再現値でも大丈夫ということなのかどうか分からないんですけれども、それが60年でも70年でも良いんですよという答えなのかなと思ったんですけれども。

●当然、流雪溝だけあっても水がなければ駄目なので、水の量を出すための目安の数字ですが、やはり流雪溝を使う地域住民の方が、やっぱりルールを無視したりすると、小さな雪でも溢れたりします。例えば、説明資料の6頁の右下に、流雪溝の写真載っているんですけども、たまに転落防止の金網を取って、重機でダーッと捨てたりする人がちょっといたりするんですよ。そういうふうにしちゃうと、やはり同じ量の水があっても溢れたりするので、その地域のルールが一番大事かと思っております。

あと、もう1点。当初25億円。事業採択時25億円、あと今回20億円。これ、いろいろ調べてみますと、当初は上流側、もっと上流側の方から導水路をずっと延々と市街地まで持ってきていたようなんです。それを、途中からポンプアップでやることによって計算すると、ちょっとコスト縮減になるよということで、そういう方式を取ったと伺いました。

○今の最初の質問に関しましては、多分流雪溝の大きさに関しては、どれぐらいがリミットかというのは出ると思います。ただし、道路みたいなものに関しましては、例えば1時間ほど交通がストップしたら駄目なのか、2時間なのか、30分なのか、その定義で全然違ってくると思うんですよ。ですから、なかなか定義しにくい、出しにくいものかと思いません。流雪溝そのものは出せると思います。

○消流雪は非常に素晴らしいなと思ったんですけども、これだけの量を、逆に今度本川に返した時に、流量は低減していると思うんですけども、冬場なので、そういった影響については検討されているのでしょうか。

●検討をしております。取水口から出口まで、当然減水区間もあるんですけども、また雪も一緒に排出されますので、逆に水量は多くなるようなイメージになっているんですけども、そこは検討をしております。

○実際には、河川に対して、雄物川本川には冬場なので影響はないということよろしいんですか。

●はい。そのとおりでございます。

○少しだけ。すいません、到着が遅れまして申し訳ございません。うちの村も、もう40cmぐらい雪が降ってまして、先週すでに1回雪下ろしをした地域もあるぐらいでございます。流雪溝につきましては、やはりうちの村でも非常に効果がございまして、大仙市長さんもいらっしゃいますけれども、市街地においては非常に効果を発揮するものかと思っております。この事業については、いわゆる克雪、雪対策と利水が上手く組んだ事業かと思っております。非常に良い事業だなと思っております。資料を見させていただいていました。先ほど〇〇委員の方から使い方のお話もありましたけれども、多分地域ごとに流雪溝組合のようなものがある、その地域で例えば流す時間だとかというのを調整しているかと思っております。わが村

においてもそのような形ですので、この事業には引き続き効果を期待しますとともに、地域の皆さんの声を拾い上げて、どちらかというところからは修繕の方になっていくかと思えますけれども、市の方と協力しながら、その対応をやっていただければ、非常に良い事業かなと思っております。

○ここでの議題は、11ページの中ほどでございます、今後の事業評価の必要性はないと考えるという事務局案に対しまして、この事務局案でよろしいでしょうかということでございますが、いかがでしょうか。

よろしいですかね。そしたら、事務局案は了承されたということにさせていただきますけれども、文章が、最初の環境整備の方は最終的に以上により本事業は云々という書き方をしていますのに、ここなんか、繋がりが悪いような気がしました。最後に再検討しますが、内容はそのまま結構なんですけれども、ちょっと検討していただければと思います。例えば私が思ったのは、今後の事業評価の必要性といったところで、「また」と書いていますけれども、この「また」は上の方に続けて、「また施設整備後は除雪労力の軽減などの効果も聞かれている」と、そこで切って、段落を変えて、「以上により、本事業は事業当初の目的に対して効果が発現されており、今後の事業評価の必要性はない」という、最初の方のこちらの結論、それと同じような書き方が良いのではないかなと思いました。あくまでも、これ参考意見です。

(2) 河川整備計画関連の報告

①平成29年7月・8月洪水の概要及び対応状況について

○これご報告ということで、特に質問はございませんですかね。でも、私は非常に興味があるんですけれども。と言いますのは、国交省の方からの好意でデータをいただきまして、それもまだ暫定値という形だったんですけれども、具体的には刈和野のところで暫定値として流量が6,700何 m^3/s ぐらいの値が出ております。それで、これ暫定値ですので、公として使ってはまずいデータというふうに考えてよろしいのでしょうか、それとも修正値みたいなものが、現段階での確定値みたいなものがございますか？

と言いますのは、今回整備が進むと、椿川で6,100何 m^3/s ぐらいというふうな数値を示しておられまして、これは多分一切こぼれたりしない状態での推定値だと思うんですけれども。そうしますと、あの刈和野の上流、大曲と椿川の間あたりで6,700何 m^3/s が。それとちょっと数値の整合性が良くないなと思いましたので。

●いま先生からお話いただいた、数字の提供したものが、私自身確認できていませんので、

それはまた確認させていただきたいと思いますが、今回推定値ということでご説明申し上げました。氾濫しない形で推定するとうなりますというようなことで、これが、今のところの最終値でございまして、あくまで推定値ということでございます。

②「成瀬ダムの事業実施状況について

○先ほどのところで申し上げなければならないことでしたけれども。質問じゃありませんけれども、今回の7月・8月の水害、また大仙市はじめ、横手市さん、それから秋田市さんで大きな被害を受けたところでありましたけれども、大雨が降り始めてから、東北地方整備局、特に湯沢河川国道事務所の方からは、本当に先ほどもありましたけれども、ホットラインを通じて、河川の水位の予測、何時頃にはいくらぐらいになるので、おそらく浸水が始まりますよと、正確な、結果的には正確な情報だったと思っておりますけれども、それを事前にいただいたということで、そういったことで、避難勧告、避難指示が早め早めに出せたと。そして、災害が発生したあとからも、災害対応の時、リエゾン、それからTEC-FORCE 初め、本当に多くの皆さんに来ていただきまして、絶大なる対応、最後は排水ポンプ車はもちろんですけれども、道路清掃車まで来ていただいて、後始末をも含めてやっていただいたということで、本当に今回につきましては。それから更に、災害から2カ月、7月の災害から2カ月後にはもう既に激特と、通称激特という事業、5年間で218億の予算措置をして、雄物川の堤防を完成させるんだという発表が国土交通省から2カ月後にありました。こうした、全ての迅速な対応と言いますか、本当に心から感謝を申し上げたいと思いますし、またその激特事業が順調に、このあと進めていただくことをお願いしたいというふうに思っております。本当にありがとうございました。

○どうもありがとうございます。今回の件に関しましては、国交省のいろんな対応ですね、タイムラインを含めて、そういったものが非常に上手くいった例ではないかと思えます。それで、そういったいろんなことがありますけれども、私、もしその大きなファクターとして、大仙市とかでは、地域の絆と言いますか、住民の絆が非常に強くて、それこそ死者とかけがを負った方とかいうことがおられなかったということだと思しますので、その点は自分のところの自慢というふうなことで、今後も推し進めていただければと思います。

話は変わりますけれども、成瀬ダムということで、〇〇委員、なにかご意見ございますか。

○成瀬ダム工事事務所初め関係の皆さんに非常にお世話になっているところでございます。また、去る10月1日に雄物川の改修100周年の事業がございまして、私ちょうど参加して、高村部長のお話であれ、今日の資料等々見させていただいて、やっぱりダムの機能という

のは非常に大きいんだなというのを感じてございます。わが村におきましても、いま現在、事業進捗中でございますし、また村としてはさまざまな効果を期待するところでございますけれども、まずは地域の、そして流域の安全・安心を守るために、多大な期待をしているものでございますので、私どももさまざまな手法を通じて、建設を進めるよう努力してまいりますので、国の方におきましても、予算等々を含めまして、更なるご尽力の方をよろしくお願ひしたいと思ひます。

○お願ひなんですけど。工事状況の説明ということで、8頁目と9頁目に写真がありますが、もし可能であれば、ドローンからの映像もあると良いかなと。あれは緯度経度をしっかり設定できますね、高さも含めて。そうすると、定点観測のような記録ができるのでないかなと。どれぐらいの頻度が良いかという私も分からないですけれども。そうすると、パラパラと簡単に目で見てみるのも良いかなと思ひましたので、もし可能でありましたら、その検討をお願ひしたいということです。

もう一つ。質問ですけれども、いまダム建設現場を見られる展望台が、ということですが、これはダムができあがってしまうと、もう上がれなくなってしまう、微妙な位置かなと思ひたんですが、そのあたり教えていただけないですか。

●はい。まず、最後の展望台でございますけれども、展望台は工事期間中の限定の位置ということで、この位置は貯水池内になってしまいます。とういことで工事期間中の現場見学拠点という位置づけになってございます。

最初のドローンなんですけれども、まず、この写真に添付しておりますとおり、月に2～3回、週に1回までは行かないんですが、一応定点を決めて、写真の方は記録しております。ドローンなんですけれども、さまざまな条件が実はあります。例えば猛禽類なんかもあるものですから、繁殖期、極力ドローンの飛行制限をかけたり、そういうような状況もあります。そんな状況の中ですけれども、一応、定期的にドローンの撮影等もしております。また、指摘いただいた、緯度経度設定できますよねというような話もいただきましたので、その辺もちょっと参考に記録して行ければというふうに思っております。

○ありがとうございます。一つ目の展望台についてですけれども、将来は水没してしまうということで、残念にはなるんですが、そこでこの広いスペースありますよね、12頁目。それぞれにメッセージを書くとか、なんかそういうのもできるといいかなと思ひますので、もし可能であれば、検討をお願ひします。

－資料配布－

(1) 河川事業 事業評価

- 皆様、資料行き渡りましたでしょうか。最終的な事務局案ということでございます。事務局、説明していただけますでしょうか。
- はい。①の雄物川総合水系環境整備事業再評価について。これは、本文的には事業継続は妥当と判断する。なお、下記の意見を参考に付すということで、今後の整備にあたっては、引き続き、より一層のコスト縮減に努めるとともに、河川環境整備と、先ほどここに「環境」が無かったんですけども、「環境」というのを付け加えまして、環境保全を推進し、流域自治体と連携しながら河川利用の促進を図るとともに、河川愛護の啓発に努めるものとする、というふうにしてございます。続けてよろしいでしょうか。
- ②の雄物川上流消流雪用水導入事業（湯沢地区）事後評価について。これについては、説明資料の方、最終的にホームページとかで公表になるんですけども、ここでは先ほどの座長の意見を参考にしたような形で直したいと思っておりますけれども、本文的には、改善措置及び今後の事業評価の必要性はない、ということでございます。
- 基本的にはこうことでよろしいんですけども、私としては、やっぱり一つ目と二つ目、結論的にはパターンを同じにして欲しいなということだけでした。皆さんは事務局の最終案にするということでございますけれども、○○委員いかがでしょうか。
- 一つ。より一層のコスト縮減に努めるというのを、なぜ書かなくちゃいけないのかよく分かりません。と言いますのは、やはり我々としては、モニタリング調査、あるいは状況、状況によって、どんどん変わらなくてはいけない中で、環境保全を推進と、ある意味では相反する、あるいは事業主体自体が一層の縮減に努めるというのを、この14頁にそもそも書いているわけですけども、最近、ただ何も考えずに書いているだけなんですけれども、きっちり考えたら、相反するような部分もあると思いますので、もうちょっと簡単に書くとか書かないとか、今になってちょっと恐縮ですけども、あるいは「引き続き参考に付す」の中に、先ほど言った中で、今後とも、今後の整備にあたっては引き続き、むしろ必要に応じてモニタリング、あるいは適応的な対応を行い、河川整備と環境保全を推進し、という形で、あまり縮減にはちょっと。以上です。
- 一応、これは事業の再評価ということですから、入っていても良いのかなという気は、座長としてはしますけれど。
- 湯沢河川国道事務所です。説明を補足したいのですが、事業の目標や何かを出そうとする成果を縮減しようとしているわけではなくて、同じ成果を出そうとする時に、よりコストを縮減できるところは縮減していかなきゃいけないという、やはり使命というか、そういったことを示しているというふうにご理解いただければありがたいと思います。

○ここに関しましては、入れるということによろしいでしょうか。

○座長がそういうことであれば。

○一つ目に関してまして、その他ご意見ございますか。二つ目に関してはいかがでしょうか。結論は最終的には変わってないので、表現の仕方だけだと思います。

そうしたら、一応、事務局案を受け入れるということで、よろしいでしょうか。座長で最終決定させていただくということにさせていただきます。基本的には、ここに挙げたものそのものを使うという形によろしいでしょうか。

どうも長時間ありがとうございました。進行を事務局の方にお返しします。よろしくお願いたします。

以 上